

令和8年度

教育行政実施計画



笠岡市教育委員会

目 次

基本理念 施策展開の考え方	1
施策体系	2
基本施策・主要事業	
1 自分で考え、自分で判断し、他者と協働しながら課題解決する力の育成	3
2 地域の課題解決等に児童生徒が参画する地域探究学習の推進	8
3 将来を見据え、持続可能な教育体制や環境の整備	9
4 人権問題を自らの課題として捉え、解決しようとする態度の育成	12
5 総合教育相談支援センターを中心とした「笠岡市長期欠席・不登校総合対策」の推進	13
6 特別な支援を必要とする児童生徒の社会的自立を目指した、専門的な指導・支援等、特別支援教育の充実	13
7 文化財の適切な保護・保存と効果的な活用	14
8 文化・芸術活動の振興と交流	15
9 美術館を通じた芸術文化に触れる取組の充実	16
10 カブトガニの保護・研究及びネットワークの形成と推進	17
11 学習機会の提供と環境づくり	19
12 地域とともに進める学校における地域探究学習の推進	21
13 読書活動の推進	22
14 誰もが楽しめる生涯スポーツの推進	23
15 スポーツレベルの向上を目指した競技スポーツの推進	24
16 部活動の地域展開（笠岡方式）の推進	25
指 標	26
資 料	30
資料① 「つながる学び」	
資料② 「各教科で学んだことを使いこなす力を育成していくために」	
資料③ 「小学校チーム担任制の成功に向けた戦略的・段階的アプローチ」	
資料④ 「笠岡市長期欠席不登校総合対策」	
資料⑤ 「笠岡市の特別支援教育の組織的・効果的な推進に向けて」	
資料⑥ 「笠岡市【岡山県】歴史文化基本構想」概要	
資料⑦ 「地域を学びのフィールドにした「たい」のあふれる地域探究学習」	
資料⑧ 「楽しさや喜びにつながるスポーツ等の推進」	
資料⑨ 「部活動地域展開（笠岡方式）実施計画」	

笠岡市教育大綱「基本理念」

共に未来を拓く、『たい』のあふれる教育

A I やグローバル化の進展等，急激に変化し予測が困難な社会に対応していくためには，自ら考え判断し，他者と協力しながら課題解決に参画する，未来を創造していく力が必要です。

こうした力を育むために，学びの原動力となる「知りたい」「解決したい」「挑戦したい」といった『『たい（探究心）』のあふれる教育』を展開し，学校教育・生涯学習・スポーツを通して，子どもも大人も「笠岡で学んでよかった」「笠岡でもっと学びたい」と思えるような，未来に誇りと期待のもてる教育を推進します。



施策展開の考え方

第8次笠岡市総合計画には，基本方針の一つに「こどもを守り，人を育む」が位置づけられています。これをもとに，教育振興基本計画では，教育施策基本方針として「自立と共生を目指した『たい』のあふれる学校教育」「多様な生き方の尊重と居場所づくり」「文化・芸術の振興と探究」「生涯学習環境の整備」「楽しさや喜びにつながるスポーツ等の推進」の5つを掲げています。

施策の実施に当たっては，複雑化する教育課題に対して組織横断で複合的・実効的に取組を進めるとともに，時代を先取りした魅力ある施策を積極的に展開していきます。

取り組むべき施策

基本理念	施策目標 (総合計画)	基本方針	基本施策
共に未来を拓く、『たい』のあふれる教育	笠岡で学び「たい」、笠岡で学んでよかったと思える教育・生涯学習の推進と環境の整備	自立と共生を目指した「たい」のあふれる学校教育	1 自分で考え、自分で判断し、他者と協働しながら課題解決する力の育成
			2 地域の課題解決等に児童生徒が参画する地域探究学習の推進
			3 将来を見据え、持続可能な教育体制や環境の整備
		多様な生き方の尊重と居場所づくり	4 人権問題を自らの課題として捉え、解決しようとする態度の育成
			5 総合教育相談支援センターを中心とした「笠岡市長期欠席・不登校総合対策」の推進
			6 特別な支援を必要とする児童生徒の社会的自立を目指した、専門的な指導・支援等、特別支援教育の充実
		文化・芸術の振興と探究	7 文化財の適切な保護・保存と効果的な活用
			8 文化・芸術活動の振興と交流
			9 美術館を通じた芸術文化に触れる取組の充実
			10 カブトガニの保護・研究及び研究者ネットワークの形成と推進
		生涯学習環境の整備	11 学習機会の提供と環境づくり
			12 地域とともに進める学校における地域探究学習の推進
			13 読書活動の推進
		楽しさや喜びにつながるスポーツ等の推進	14 誰もが楽しめる生涯スポーツの推進
			15 スポーツレベルの向上を目指した競技スポーツの推進
			16 部活動の地域展開（笠岡方式）の推進

基本方針1 自立と共生を目指した「たい」のあふれる学校教育

【現状と課題・対応の方向性】

- ・予測困難な課題が山積する時代 → 自分で考え判断し、他者と協働した課題解決力の育成が必要
- ・少子化に伴う児童生徒数の減少 → 学校や学級の規模の縮小 ・家庭、地域の教育力の低下
- ➡ 各教科の学びを活用できるようにすること + 落ち着いた学習環境、基本的生活習慣の確立が重要
- 学校規模適正化計画を踏まえた、より効果的な小中一貫教育の打ち出しが必要
- 将来を見据えた教育体制や環境の整備のもとに、小中の系統性・連続性に配慮した教育活動を推進

基本施策1 自分で考え、自分で判断し、他者と協働しながら課題解決する力の育成

(1) 確かな学力を身につけ、各教科で学んだことを使いこなす力を育成し、新しい時代に求められる子どもの資質能力を育成

- 基礎基本の確実な習得 + 既習事項等を使いこなす課題を主体的・意欲的に解決する力等を育成
- 学習した力の実生活等での課題解決や地域探究学習での活用

事業名	算数・数学の系統的・段階的指導充実事業【重点】		予算額 (千円)	100	担当課	学校教育課	区分	新規
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	児童生徒・教職員	算数・数学の教科特性（積み上げの要素が強く、既習事項の習得度がその後の学習に大きく影響する）を踏まえた系統的・段階的な指導を充実させ、児童生徒の確かな学力を育成する。（資料①）						
事業 内容	○算数・数学に専門的な知見と高いマネジメント力を有する「算数指導改革推進員」をモデル校（中央小学校）に配置し、協力校（神内小学校）を兼務する。 ○笠岡東中学校の数学担当教員が学区内の小学校（モデル校等）を兼務し、授業に関わりながら、義務教育9年間の系統的・段階的な算数・数学の指導を意識した助言等を行う。 ○毎月複数回、指導主事等と協議・情報交換を行い、取組状況の共有・課題整理・有効な取組の検討を行う。 ○県教育委員会主催の授業改革推進チーム会への参加や県内外の先進校視察等により、効果的な取組事例を積極的に収集する。 令和8年度目標：小学校全国学力調査算数の全国正答率との差を1.0ポイント以上改善する。 中学校全国学力調査数学の全国正答率との差を0.6ポイント以上改善する。							

事業名	学んだことを使いこなす力の育成推進事業（資料②） 【重点】		予算額 (千円)	－	担当課	学校教育課	区分	新規
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	児童生徒・教職員	地域探究学習と各教科の学びを往還させることで、教科横断的な学力の向上と地域探究学習の充実を図る。また、加配教員を中心とした取組を通じて、学んだことが使えることを意図した授業設計と学んだことを使う場面としての「地域探究学習」を相互に関連させ一体的に推進できるよう、教職員の意識改革を図る。						
事業 内容	○モデル校（金浦中学校）において、地域探究学習と各教科の学びの往還を進め、生徒が各教科で学んだ内容を教科横断的に活用した探究学習を展開し、学力向上にも反映させる。 ○モデル校における取組の成果・課題を整理し、実践事例を市内全体で共有することで、各校における取組の展開を促進する。 令和8年度目標：「授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」 「当てはまる」と回答した児童生徒の割合 小学校41.4％ 中学校25.3％							

事業名	夢への原動力構築事業【重点】		予算額 (千円)	490	担当課	学校教育課	区分	継続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	児童生徒・教職員	研究校区にカリキュラム開発推進員を配置し、就学前教育から義務教育終了までの12年間の切れ目のない こ・小・中連携カリキュラムを開発・実践することで、探究的な学びを充実させ、非認知能力と認知能力の一体的な育成を図る。						
事業 内容	○就学前教育から義務教育終了までの12年間を見通した こ・小・中連携カリキュラムを作成する。 ○こ・小・中合同会議を定期的に開催し、3校園が目標を共有しながら連携した教育活動を展開する。 ○研究校（北川小学校）における取組の成果・課題を市教委と定期的に共有し、持続可能な こ・小・中連携体制の構築モデルとして市内に発信する。 令和8年度目標：「夢や目標を持っていますか」 「当てはまる」と回答した児童生徒の割合 小学校60.5% 中学校44.0% 「授業で課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいた」 「当てはまる」と回答した児童生徒の割合 小学校26.5% 中学校35.3%							

事業名	ICT機器を活用した教育活動の推進（教育DX推進）事業【重点】		予算額 (千円)	124,678	担当課	学校教育課	区分	継続
事業目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	児童生徒・教職員	教育現場におけるDXを推進し、クラウドサービスや一人一台端末等ICT環境を活用することで、新しい時代に求められる児童生徒の資質・能力を育成する。						
事業内容	○ICTを効果的に活用した授業が行われるように、ICT支援員を配置する。 ○十分な予備機を含めた端末の適切な更新を行い、一人一台端末環境を引き続き維持する。 ○AI教材を導入しその蓄積されたデータ等を適切に活用することで個に応じた学習支援を行う。 ○ICTを活用した校務の効率化により、教職員の働き方改革を推進する。 令和8年度目標：「PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」 「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合 小学校45.0% 中学校75.0% 教職員の時間外在校等時間の平均時間 小学校31.9時間／月 中学校31.8時間／月 以下に る。							

事業名	グローバル社会に対応した外国語教育の充実事業	予算額 (千円)	43,085	担当課	学校教育課	区 分	継 続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）					
	児童生徒	外国語指導助手との連携による実践的コミュニケーション能力を育成し、グローバル社会に対応できる力を身につけさせる。					
事業 内容	○外国語指導助手を8名配置し、生きた英語に触れる機会を確保することでコミュニケーション能力の向上を図る。 ○小中一貫カリキュラムに基づく外国語教育の系統的な展開を図る。 ○A Iを活用した小学校外国語教育の試行的取組の実施 令和8年度目標：A L T全校配置						

事業名	教職員の指導力向上（笠岡市教育研修所研修の充実）事業		予算額 (千円)	850	担当課	学校教育課	区 分	継 続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	教職員	笠岡市教育研修所研修部会等を通じ、教職員が主体的に行う実践的研修を推進し、新しい時代に求められる教職員の資質・能力を向上させる。						
事業 内容	○笠岡市教育研修所各部会による実践的研修を計画的に実施する。 ○小中合同で教科部会を開催することにより、教職員が義務教育9年間を見通した「つながる学び」（資料①）の意識をもつことで、指導の一貫性を確保した教育活動を展開させる。 ○学園内（中学校ブロック）における授業研究・校内研修の充実を支援する。 令和8年度目標：「教科の指導において9年間の系統性を意識した授業づくりを行っている」 教職員の肯定的回答 26.7%							

事業名	小規模連携モデル研究推進事業【重点】		予算額 (千円)	100	担当課	学校教育課	区分	継続
事業目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	教職員	小規模の中学校における学力向上に当たり、教科研究推進員を配置し、本務校、兼務校及び連携校による定期的な合同教科会を開催し、日常的な授業改善の取組の充実と授業力の向上のための体制づくりを促進する。						
事業内容	○豊富な経験と高い指導力を有する理科の加配教員を研究校（新吉中学校）に配置する。 ○研究校及び協力校（大島中学校・小北中学校）の理科担当教員による合同教科会を定期的に開催する。 ○加配教員が笠岡市教育研修所等を通じて、理科以外の教科・研究校以外の中学校にも取組を発信・提案し、笠岡市全体の教科授業力・学力の向上につなげる。 令和8年度目標：合同教科会（理科）を関係校の職員メンバーで毎週1回を目安に開催する。							

(2) 落ち着いた学習環境づくりや、子ども一人ひとりの多面的な理解に基づく適切な指導・支援等、多層的な生徒指導体制の整備

- 子どもたちが落ち着いて学習に取り組める学習環境づくり
- 多面的な児童生徒理解のもと、実効性のある指導・支援を展開
- 問題の早期把握と対応を重視した生徒指導

事業名	落ち着いた学習環境づくりと関係機関等との連携による 多層的な生徒指導体制の整備【重点】		予算額 (千円)	－	担当課	学校教育課 生涯学習課	区 分	新 規
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	児童生徒・教職員	問題の早期把握と対応を重視した生徒指導等により落ち着いた学習環境を 確保するとともに、多面的な児童生徒理解に基づく実効性のある指導・支援を 展開することで、すべての子どもが安心して学べる環境を実現する。						
事業 内容	○発達支持的生徒指導 ^{*1} を基盤とし、生徒指導の諸課題の未然防止の取組の充実を図る。 ○問題行動の予防的活動と早期発見・早期対応を段階的・包括的に展開する。 ○青少年健全育成に係る取組の充実を図る。 ○ネット上のいじめ・トラブル等への積極的な対応を行う。 ○警察と連携した非行防止教室を積極的に実施する。 令和8年度目標：「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」 「当てはまる」と回答した児童生徒の割合 小学校78.0％ 中学校83.0％							

*1 発達指示的生徒指導・・・児童生徒の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えるように働きかける生徒指導

(3) 基本的な生活習慣の確立を目指した健康教育の充実と食育の推進

- 学校を中心に家庭の協力も得ながら子どもの心身の健康を保持・増進し基本的な生活習慣を確立
- 子どもたちが生涯を通じて健康な生活を送り「たい」という意識を向上
- 学校給食では安全・安心を最優先に衛生管理を徹底
- 栄養教諭と連携した食に関する指導の充実

事業名	基本的な生活習慣の確立を目指した健康教育充実事業 【重点】		予算額 (千円)	—	担当課	学校教育課 生涯学習課	区 分	新 規
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	幼児児童生徒・教職員・保護者	心身共に発達途上にある幼児児童生徒の基本的な生活習慣を整えることにより、学習意欲や気力の充実、体力の向上を目指す。						
事業 内容	○睡眠とメディアコントロールを中心に発達段階に応じた生活習慣の向上を目指す。 ○メディアコントロール等の啓発活動を展開する。 ○笠岡市教育研修所養護部会と連携した取組を行う。また、学校が行う健康教育を支援する。 ○PTA連合会等と連携した健康教育を推進する。 令和8年度目標：「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」 「そう思う」と回答した児童生徒の割合 小学校87.0% 中学校87.0%							

事業名	地産地消推進・啓発事業	予算額 (千円)	—	担当課	学校給食センター 学校教育課	区 分	継 続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）					
	児童生徒・保護者	学校給食を生きた教材として捉え、「食」がたつなく社会の仕組みや課題を理解し、学校・家庭・地域と連携しての地産地消の食育を推進する。					
事業 内容	○地元生産者等と連携し、笠岡産や岡山県産といった身近な食材を積極的に献立に取り入れ、地産地消への関心を深めるとともに、学校給食だけでなく家庭においても地産地消に取り組むための情報提供を行う。 ・給食だより、動画等による食の情報提供、情報発信 令和8年度目標：月1回以上 ・地産地消週間における地産地消食材の積極的な活用 令和8年度目標：金額ベース65%以上						

事業名	食育推進・啓発事業【重点】	予算額 (千円)	—	担当課	学校給食センター 学校教育課 生涯学習課	区分	継続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）					
	児童生徒・保護者	食生活を中心とした基本的生活習慣を身につけるとともに、必要とされる 質・量・栄養を摂取し、自己の健康管理に取り組む姿勢を育てる。					
事業 内容	○「早寝・早起き・あいさつ・朝ごはん」運動を推進し、学校・家庭と連携し、基本的生活習慣、特に食習慣に関心を 持ち、自分で健康管理に取り組める食育を行う。 ・身近な課題として取り組む食育指導の実施 令和8年度目標：食育指導 小学校1・3・6年生・中学校の全学級 へ訪問、朝食指導 小学校5年生の全学級へ訪問 ・残食率の調査と適切な栄養摂取指導 令和8年度目標：学校給食の提供量に対する残食率16.0%以下 ・「献立による学校給食指導年間計画表」等による行事食等、児童生徒の希望献立の実施 令和8年度目標：全校 ○学校給食は生きた教材であり、一日の食生活の一部であることを理解し、家庭においても栄養バランスのとれた食事が 実践できるよう情報提供を行う。 ・朝食摂取に関するアンケートと実態把握 令和8年度目標：毎日朝食を食べるアンケート結果80%以上 ・給食だより、動画等による食の情報提供、情報発信 令和8年度目標：月1回以上						

基本施策2 地域の課題解決等に児童生徒が参画する地域探究学習の推進

- 地域等を学びのフィールドとした地域探究学習を展開
 - ・各教科で身につけた力を活用した地域の課題解決等への子どもたちの参画とキャリア教育の推進
 - ・地域探究学習に必要な力を各教科の指導にもフィードバック
 - ・地域住民の協力を得ながら、地域の実情にあった実践的な安全・防災教育を実施

事業名	「たい」のあふれる地域探究学習推進事業【重点】		予算額 (千円)	3,915	担当課	学校教育課	区分	新規
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	児童生徒	笠岡の豊かな自然・歴史・文化を活かした地域探究学習を展開し、単なる調べ学習にとどまらない地域課題解決への参画を通じて、ふるさとへの愛着と誇りを醸成する。						
事業 内容	○各教科で身につけた力を活用した地域課題解決型の探究学習を実施する。 ○各教科の学びと地域探究学習の学びを往還させるカリキュラム・マネジメントを推進する。（資料②） ○地域住民との連携による探究活動を充実させる。（資料⑦） 令和8年度目標：「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」 「当てはまる」と回答した児童生徒の割合 小学校41.4% 中学校39.5% 「授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」 「当てはまる」と回答した児童生徒の割合 小学校41.4% 中学校25.3%							

事業名	実践的な防災教育推進事業【重点】		予算額 (千円)	－	担当課	学校教育課	区 分	継 続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	児童生徒	地域や学校の実情にあった実践的な安全・防災教育を実施し、子どもたちの「自助」「共助」の防災意識を高める。						
事業 内容	○地域や学校の実情に応じた実践的な防災訓練・避難訓練を計画・実施する。 ○地域住民・関係機関と連携した安全・防災教育プログラムを推進する。 ○「自助」「共助」の意識を高める防災教育を地域探究学習と関連させて展開する。 令和8年度目標：「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」 「当てはまる」と回答した児童生徒の割合　小学校41.4％　中学校39.5％							

事業名	学校運営協議会活動の推進事業		予算額 (千円)	1,311	担当課	学校教育課 生涯学習課	区 分	継 続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	地域住民・保護者	学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の取組を充実させ、学校と地域・保護者が目標を共有した教育活動の一貫性を確保することで、教育効果の向上を図る。						
事業 内容	○各学園の学校運営協議会を定期開催し、学校と地域・保護者の目標共有を推進させ、教育力を高める。 ○地域住民の協力を得た授業支援・体験活動等を充実させる。 ○地域連携協働活動を推進する。 令和8年度目標：地域学校協働活動事業等で児童生徒1人あたりに関わる地域ボランティア人数を10.0人以上にする。							

基本施策3 将来を見据え、持続可能な教育体制や環境の整備

(1) 施設分離型による小中一貫教育の推進等教育体制の整備

- 小中一貫教育は学校規模適正化計画により、施設分離型を基本に推進
 - ・系統的教育により分離型でも成果
 - ・小学校期、中学校期 → 小学校のリーダー育成等に効果
- 小学校チーム担任制や教育DX等、新たな取組を積極展開

事業名	施設分離型小中一貫教育推進事業【重点】		予算額 (千円)	9,090	担当課	学校教育課	区 分	新規
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	児童生徒・教職員	施設分離型を基本とした義務教育9年間を見通した小中一貫カリキュラムを実施し、系統的・連続的な教育活動を展開することで、長期欠席・不登校の減少等、教育効果の向上を図る。						
事業 内容	○義務教育9年間を見通した「つながる学び」（資料①）を意識した教育活動を展開することで、指導の一貫性を確保する。 ○就学前施設との円滑な接続に向けた連携を強化する。 ○小中合同研修・合同行事等、施設分離型ならではの連携活動を推進する。 令和8年度目標：「中学校で学習する内容が楽しみだ」「そう思う」と回答した小学校6年生の割合 45.1%							

事業名	小学校チーム担任制推進事業【重点】	予算額 (千円)	5,020	担当課	学校教育課	区 分	新 規
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）					
	教職員	組織的対応・指導力向上を目指した「小学校チーム担任制」を展開し、教育効果を高めるとともに、効率的な教育指導・校務運営により教職員の働き方改革につなげる。					
事業 内容	○チーム担任制を実施している学校へ加配教員を配置し、体制を強化する。 ○これまで長年続いてきた小学校の常識や文化を戦略的かつ段階的に変えていく。（資料③） ○「小学校チーム担任制」の実施・検証を行い、成果と課題を共有する。 令和8年度目標：教職員の時間外在校等時間の平均時間 小学校31.9時間／月以下にする。						

事業名	転入学特別制度		予算額 (千円)	—	担当課	学校教育課	区分	継続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	児童, 生徒	豊かな自然環境や少人数の中での教育活動を特色とした小・中学校を指定し, その教育方針に賛同する児童生徒並びに保護者に対して, 特別に入学又は転入学を認めることにより, 特色ある学校生活を送ることができるようにする。						
事業 内容	○豊かな自然環境に恵まれた少人数での教育活動を希望する児童生徒並びに保護者に対して, 一定の条件を付して特別に入学又は転入学を認める。 ・転入学特別制度は神島外小学校及び神島外中学校において実施する。 令和8年度目標:本事業の広報活動(小学校へのチラシ配布, HPへの掲載)							

(2) 安全かつ快適で持続可能な教育環境の整備

- すべての児童生徒が安全かつ快適に学べる環境の確保
- 学校施設の長寿命化・老朽化対策など施設整備の計画的な推進
- 学校規模適正化計画に基づく、計画的な施設改修や新設校の建設

事業名	屋内運動場空調整備事業【重点】	予算額 (千円)	135,900	担当課	教育総務課	区 分	新 規
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）					
	児童生徒等	屋内運動場を使用する授業や学校行事等に加え、避難所利用時における熱中症リスクの軽減を図る					
事業 内容	○市内小中学校の屋内運動場に空調設備（電気式）を整備するとともに、遮熱対策を行う。 令和8年度整備校（目標）：新山小学校、笠岡東中学校						

事業名	学校統合に係るスクールバス運行事業【重点】		予算額 (千円)	0 (債務負担行為)	担当課	教育総務課	区 分	拡 充
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	スクールバス通学の範囲に居住する児童	統合により長距離通学となる児童の学校までの安全な通学手段を確保する。						
事業 内容	○スクールバス業者と長期継続契約（令和9年度から5年間）を締結し、保護者・バス業者等と運行開始に向けた準備を進める。 令和8年度目標：“城見小学校”と“吉田小学校・新山小学校との統合校”のスクールバスの契約等							

事業名	学校施設長寿命化事業	予算額 (千円)	38,530	担当課	教育総務課	区分	拡充
事業目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）					
	児童生徒等	持続可能な教育環境が確保できるよう、学校施設の長寿命化を図る。					
事業内容	○学校施設長寿命化計画に基づき、年次的に施設の長寿命化を行う。 令和8年度目標：城見小学校（屋内運動場） 実施設計（現年度分：3,530千円） 笠岡小学校（教室棟） 屋上防水工事（R7年度からの繰越明許分：35,000千円）						

事業名	小学校遊具更新事業		予算額 (千円)	4,100	担当課	教育総務課	区 分	拡 充
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	児童等	老朽化した遊具を更新することにより、安全かつ安心して遊ぶことができるようにする。						
事業 内容	○令和7年度の小学校の遊具点検により安全基準に適合しなかった遊具の更新を行う。 令和8年度目標：笠岡小学校、大井小学校、大島小学校、新山小学校、城見小学校							

事業名	小中学校バリアフリー化推進事業		予算額 (千円)	3,890	担当課	教育総務課	区 分	拡 充
事業 目的	対象（誰を）		意図（どのようにしたいのか）					
	児童生徒等		安心安全な学校生活を送ることができるよう学校施設のバリアフリー化を進める。					
事業 内容	○個別対応が必要な児童生徒が通う学校への対応を最優先にしながら、小中学校にスロープ等を設置しバリアフリー化を推進する。 令和8年度実施目標：個別対応が必要な児童生徒の対応 1校（中学校1校） 							

事業名	新中学校の建設に向けた基本構想の策定	予算額 (千円)	—	担当課	教育総務課 学校教育課	区 分	新 規
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）					
	生徒等	将来にわたって持続可能で特色ある教育を行うため、学校規模適正化計画に基づき、新中学校の建設にむけた基本構想を策定する。					
事業 内容	○新中学校建設にむけた基本構想の策定						

基本方針2 多様な生き方の尊重と居場所づくり

【現状と課題・対応の方向性】

- ・価値観の多様化 → 「違い」を尊重し、自分らしく幸せに生きることができる社会の創出
- ・様々な人権問題を自らの課題として捉え、主体的に解決しようとする態度を養うことが必要
- ➡ 教育活動全体を通じた、計画的・継続的な人権教育
 - いじめ、不登校、問題行動の未然防止、早期発見・早期解決
 - 特別な支援を必要とする一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実と教職員の指導力の向上

基本施策4 人権問題を自らの課題として捉え、解決しようとする態度の育成

- 多様性を尊重する人権教育の積極的推進
- 学校の教育活動全体を通じた人権教育
- 教職員が一丸となった子どもの人権の尊重といじめの積極的認知と解決

事業名	多様性を尊重する人権教育推進事業		予算額 (千円)	437	担当課	学校教育課	区 分	新 規
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	児童生徒・教職員	教育活動全体を通じた計画的・継続的な人権教育を推進し、多様性を尊重する人権教育を積極的に実施する。						
事業 内容	○各教科・領域で人権に関わる視点を意識的に取り入れ、児童生徒が多様な価値観に触れる機会を創出する。 （道徳科を核としつつ、特別活動や総合的な学習の時間で実践的に展開する。） ○異なる背景を持つ人々との交流活動や、地域の人権課題を題材とした探究学習を実施する。 ○人権教育に関する定期的な研修を実施し、指導力と意識の向上を図る。 令和8年度目標：「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」 「そう思う」と回答した児童生徒の割合 小学校78.0% 中学校83.0%							

事業名	いじめ問題対策推進事業（笠岡市いじめ問題対策基本方針に基づく取組）【重点】		予算額 （千円）	33	担当課	学校教育課	区 分	新 規
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	児童生徒・教職員	「笠岡市いじめ問題対策基本方針」に基づく組織的対応を徹底し、いじめの積極的認知と早期解決を図ることで、すべての子どもが安心して生活できる学校環境を実現する。						
事業 内容	○いじめ問題対策連絡協議会を開催し、笠岡市としての対策を推進する。 ○各校のいじめ対策委員会等の実効的な運用を推進する。 ○インターネット上のいじめ・トラブルへの積極的対応と情報モラル教育を実施する。 令和8年度目標：「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」 「そう思う」と回答した児童生徒の割合 小学校78.0% 中学校83.0%							

基本施策5 総合教育相談支援センターを中心とした「笠岡市長期欠席・不登校総合対策」の推進

- 長期欠席・不登校を生まない魅力ある学校づくり、学級づくりを推進
- 居場所の確保とSC・SSW等^{*2}の専門家の活用、関係機関との連携による支援

*2 SC…スクールカウンセラー SSW…スクールソーシャルワーカー

事業名	「笠岡市長期欠席・不登校総合対策」推進事業（資料④） 【重点】		予算額 (千円)	17,375	担当課	学校教育課	区 分	継 続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	児童生徒・保護者・教職員	新たな不登校を生まない取組を強化するとともに、すでに登校困難となっている児童生徒に対して居場所を確保し、状態を向上できる取組やそうした場で支援を受けることができるようアウトリーチ支援を行うなど、誰一人取り残さず、すべての子どもが社会的自立に向けた基礎を身に付けられるよう総合的な取組を展開する。						
事業 内容	○支援対象者リストやステップアップ支援シート等を活用した支援策の検討と取組を展開する。 ○校内自立応援室を有効活用する。 ○オンラインを活用した相談・支援体制を充実させる。 ○総合教育相談支援センターの3つの支援を強化する。 ○SC・SSW等の専門家の配置と活用を行う。 ○笠岡市総合教育相談支援センターへの相談員（指導員）、巡回カウンセラーを配置する。 ○飛島相談室を設置する。 令和8年度目標：1,000人当たり不登校児童数（小学校）を11人以下にする 1,000人当たり不登校生徒数（中学校）を38人以下にする							

基本施策6 特別な支援を必要とする児童生徒の社会的自立を目指した、専門的な指導・支援等、特別支援教育の充実

- 教職員の指導力向上と専門家や関係機関との連携による、教育的ニーズに応じた支援体制の強化
- 特別支援教育の観点に基づく授業づくりやICTの効果的な活用
- 就学前から中学校卒業までの一貫した支援体制の構築

事業名	特別支援教育充実事業	予算額 (千円)	61,544	担当課	学校教育課	区分	継続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）					
	児童生徒・保護者・教職員	特別支援教育コーディネーターを中心とする校内支援体制を整備・強化し、専門家や関係機関等とも連携した専門的な指導・支援を行いながら、発達障害を含めた特別な支援を必要とする一人ひとりの教育的ニーズに的確に応じた支援を充実させる。（資料⑤）					
事業 内容	○特別支援教育コーディネーターを中心とする校内支援体制を整備・強化する。 ○個別的教育支援計画・個別の指導計画の作成・活用を徹底する。 ○特別支援教育の観点に基づく授業づくりとＩＣＴの効果的な活用を推進する。 ○専門家や関係機関等とも連携した、専門的な指導・支援体制を構築する。 ○笠岡市教育活動支援事業により教育支援員を配置する。 ○特別支援教育巡回相談員を笠岡市総合教育相談支援センターに配置する。 令和８年度目標：「自分にはよいところがあると思いますか」 「当てはまる」と回答した児童生徒の割合　小学校４５.２％　中学校４１.１％						

基本方針3 文化・芸術の振興と探究

【現状と課題・対応の方向性】

- ・社会状況の変化により文化財の継承が困難な事例あり → 保存や調査、担い手育成などが課題
- ・文化活動参加者の固定化と来場者の減少 → 幅広い世代が参加しやすい環境づくりや発表の場が必要
- ・竹喬美術館 → 知的刺激や心の潤いを得られる学びの場として、更なる工夫が必要
- ・カブトガニ博物館 → 繁殖力回復に向けた長期的な取組と市民理解を深める普及啓発が必要
- ➡ 笠岡市歴史文化基本構想に基づく文化財の保存・活用
 - 市民団体の連携を促し、幅広い世代が文化活動に参加できる環境の整備
 - 竹喬美術館 → 多様な企画の展開により市民が繰り返し訪れたい芸術の拠点を目指す
 - カブトガニ博物館 → 「未来ビジョン」に基づく調査・保護、全国に向けた情報発信

基本施策7 文化財の適切な保護・保存と効果的な活用

- 「笠岡市歴史文化基本構想」に基づく保護・保存と活用の一体的な取組
- 市民への歴史文化を学習する機会の提供

事業名	文化財保護・保存・活用事業	予算額 (千円)	7,694	担当課	生涯学習課	区分	継続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）					
	市民等	文化財の調査を行い、重要なものは指定・登録して後世に伝えとともに、公開活用を促進し、歴史文化の学習機会を提供することによって、笠岡市の文化及び魅力と活力の向上を図る。（資料⑥）					
事業 内容	○文化財の調査及び適切な保存・継承						
	・文化財の調査・指定・登録を行い、その価値を明らかにする。（国登録文化財候補物件の調査） ・指定文化財保護のため補助金を支出する。（文化財保護事業補助金，無形民俗文化財保存事業補助金） ・文化財施設（敬業館，関戸廃寺，遍照寺多宝塔，長福寺裏山古墳群ほか）の管理を行う。 ・文化財保存活用計画を策定する（津雲貝塚）						
事業 内容	○文化財の活用推進及び地域の歴史文化を学ぶ機会の充実						
	・歴史文化の情報を発信する。（郷土館，井笠鉄道記念館，文化財説明板整備，文化財リーフレット，講演会ほか） ・学校教育（地域探究学習）を支援し学習機会を提供する。 ・日本遺産「知ってる!? 悠久の時間が流れる石の島」に関する普及啓発，人材育成，調査研究を推進する。						
事業 内容	○文化財の保護・活用体制の整備と人材育成						
	・文化財ガイドを養成する。						
事業 内容	令和8年度目標：文化財調査・保護件数 40件						
	文化財活用・普及件数 40件						

基本施策8 文化・芸術活動の振興と交流

- 世代を問わず多様な文化に関心を持ち、親しみながら活動に参加できる環境の整備
- 文化・芸術活動の活性化と担い手育成の推進

事業名	文化事業の充実	予算額 (千円)	490	担当課	生涯学習課	区	継続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）					
	市民	世代を問わず誰もが文化・芸術活動に参加できる環境を整え、活動の活性化と担い手の育成を通じて、知性と文化意識の向上を図り、豊かな文化的風土を育む。					
事業 内容	○笠岡市さつき・新緑展、夏休み子ども体験教室、笠岡市文化祭、笠岡市芸能祭、笠岡市菊花展、笠岡市児童・生徒美術展の6事業を開催する。 ・令和7年度から同日開催している笠岡市児童・生徒美術展、笠岡市文化祭に、例年同時期に開催している笠岡市菊花展、笠岡市芸能祭を含め「笠岡文化の秋」と題して開催する。 ・子どもから大人まで幅広い世代の市民に芸術・文化活動への参加を働きかけ、優れた芸術・文化活動の鑑賞機会を提供する。 ○公益財団法人笠岡市文化・スポーツ振興財団との共催事業として、全国大会出場者等に対して賞揚金を贈呈し、選手を激励する。 ・世界大会・全国大会・中国大会成績優秀者に対し、文化特別賞を授与する。 令和8年度目標：文化事業参加者総数 4,180人						

事業名	笠岡市木山捷平文学選奨		予算額 (千円)	1,200	担当課	生涯学習課	区分	継続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	市民等	笠岡市出身の小説家木山捷平氏の業績を顕彰することで、文芸創作活動の活発化と、文芸創作活動をする市民の増加を図る。						
事業 内容	○短編小説、随筆、詩、短歌、俳句、川柳の6部門で作品を募集する。 ・短編小説は全国公募を行い、その他は市内公募を継続する。（令和4年度から新たに過去に市内に在住・在学又は勤務地のあった方を応募資格に加えた。） ・公募の範囲については今後の事業継続・充実に向け、対象を検討する。 ・優れた作品は表彰の上、作品集に掲載し発行する。 令和8年度目標：短編小説応募者数 200人 その他5部門の応募者総数 2,800人							

事業名	能・狂言体験学習	予算額 (千円)	295	担当課	生涯学習課	区 分	継 続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）					
	児童生徒	小・中学生の伝統芸能への関心・理解を深め、豊かな情操を育むとともに、将来の文化活動を担う人づくりを推進する。					
事業 内容	○平成22年度開催の国民文化祭の継承事業として、能・狂言の体験学習を小、中学校において実施する。派遣した能楽師や狂言師の指導により、学校教育（地域探究学習）と連携して、児童生徒が日本の伝統芸能である能・狂言を体験したり、発表したりする場を提供する。 令和8年度目標：体験コース（能・狂言）各3校（2時間×1回） 継続発表コース（狂言）1校（2時間×7回）						

基本施策9 美術館を通じた芸術文化に触れる取組の充実

●**小野竹喬顕彰**という基本理念を軸に、**魅力的で多様な企画展の開催**や**芸術文化に触れる環境づくり**

事業名	展覧会等事業		予算額 (千円)	14,794	担当課	生涯学習課	区 分	継 続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	市民等	小野竹喬や関連する画家の研究を踏まえ、市民が画角的に美術作品を見る、知る、体験する場と機会を得られるようにする。 文化向上を図る。						
事業 内容	○研究紀要「竹喬研究」第10号の発刊 ○テーマ展「竹喬美術館 春夏秋冬」 ○テーマ展「絵のなかの いきものたち」 ○特別展「榊原始更展」 ○特別展「津田白印展」 ○テーマ展「色、いろ、イロ」 令和8年度目標：入館者数 12,550人							

事業名	各種イベント開催事業	予算額 (千円)	359	担当課	生涯学習課	区分	継続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）					
	市民等	見る、知る、体験する場と機会を得られるようにする。 文化向上を図る。					
事業 内容	○テーマ展「竹喬美術館 春夏秋冬」ギャラリートーク ○テーマ展「絵のなかの いきものたち」 ギャラリートーク、ワークショップ、ナイトミュージアム ○特別展「榊原始更展」 ギャラリートーク、講座、特別ギャラリートーク ○特別展「津田白印展」 ギャラリートーク、特別ギャラリートーク、干支ワークショップ、新春くじ引き ○テーマ展「色、いろ、イロ」ギャラリートーク ○子ども向け企画 対話型鑑賞、子ども絵画教室、体験講座 令和8年度目標：イベント開催回数 22回 イベント参加者数 300人						

基本施策10 カブトガニの保護・研究及びネットワークの形成と推進

- 「未来ビジョン」に基づき、繁殖地の保護・調査研究・保護増殖の取組を推進し成果を広く公開
- 国内の様々な地域における研究者や関係団体との連携と知見の共有・深化
- 「カブトガニ研究・保護ネットワークのホスト」として、全国の取組の発信拠点を目指す

事業名	繁殖地及びカブトガニの保護	予算額 (千円)	15,198	担当課	生涯学習課	区 分	継 続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）					
	市民等	天然記念物カブトガニ繁殖地を保護し、カブトガニの自然繁殖を実現できるように、個体数の増加を目指し、その活動について市内外に広く理解を求める。					
事業 内容	○繁殖地の保護及び啓発 ・カブトガニ保護啓発運動 令和8年5月16日 ・リフレッシュ瀬戸内 令和8年6月21日 ・保護監視活動 4月～11月 令和8年度目標：保護啓発運動参加者数 280人 保護監視活動回数 45回 ○カブトガニ個体の保護 ・飼育池で産卵した卵を人工孵化させ、幼生を飼育し、幼生放流を行う。 ・市内外の幼・小・中学生、一般の方々による幼生放流 幼生放流数：8,120匹（令和7年度実績） ・飼育施設の改修工事を行う。（産卵池水路擁壁補強工事） 令和8年度目標：幼生放流回数 1回以上						

事業名	各種調査・研究【重点】	予算額 (千円)	2,737	担当課	生涯学習課	区 分	継 続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）					
	市民等	カブトガニの棲息環境及びその生態を把握することにより、以後の保護活動に活用するとともに、その成果を社会に還元する。					
事業 内容	○カブトガニ繁殖地内において、幼生調査や干潟調査などの各種調査を行う。 ・干潟調査 目視によるカブトガニの棲息環境及びその生態の把握 ・産卵調査 自然産卵状況の調査 ・成体調査 捕獲された成体の調査及び保護 ・研究活動 GPS搭載ドローンの活用によるカブトガニ幼生の分布域の研究 令和8年度目標：干潟調査10回 産卵調査5回 研究結果の発信1回						

事業名	関係団体との連携と知見の共有・深化		予算額 (千円)	454	担当課	生涯学習課	区 分	継 続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	市民等	調査、研究により蓄積した知見を関係団体（学校、保護少年団など）と共有し、その学びをより深めることで、カブトガニ及びその繁殖地を保護する意義を伝える。また、繁殖地を有する他自治体と連携することで、カブトガニ保護ネットワークを強化する。						
事業 内容	○各種講座 学校や地域への出前講座や博物館での講座 ○学芸員チャレンジ 市内高校生が学芸員業務を体験する ○マイスター養成講座 カブトガニについて学び、講座修了後は家庭での飼育を目指す ○繁殖地を有する他自治体との連携 カブトガニ環境サミットを通じた連携 令和8年度目標：マイスター養成講座修了者 4組							

基本方針4 生涯学習環境の整備

【現状と課題・対応の方向性】

- ・学習機会の偏りや情報発信の充実，地域学校協働活動の広がりや継続性の確保が課題
- ・児童生徒が地域の課題解決に参画する「地域探究学習」の推進が一層重要
- ・読書習慣を根付かせることや，ＩＣＴを活用した誰もが利用しやすい読書環境について検討が必要
- ➡ 市民に多様な学習機会を提供し，公民館や図書館など社会教育施設の環境整備・サービス充実
学校運営協議会及び地域学校協働活動の推進による教育力の向上
誰もが読書に親しめる環境の整備と学習・活動成果を市民や団体が発信する機会の創出

基本施策11 学習機会の提供と環境づくり

- 公民館や図書館等社会教育施設を拠点とした，多様な学習機会が得られる環境の充実
- 学校教育と連携・連動しながら家庭教育を支援
- 社会教育に取り組む市民や団体との連携による，学びの環境を創出する主体の育成と協働の推進

事業名	公民館活動助成事業		予算額 (千円)	5, 358	担当課	生涯学習課	区 分	継 続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	市民	市民が公民館を拠点として、地域ニーズに応じた学習活動や交流に主体的に参加するとともに、地域課題の解決に向けた取組に関わることで、地域における学びと活動の活性化を図る。						
事業 内容	○公民館を拠点とする地域ニーズに応じた学習活動・交流事業の推進 ○公民館を拠点とする地域課題解決に向けた取組の促進 令和8年度目標：新規助成事業 5事業 助成事業参加者数 20,000人							

事業名	まちづくり出前講座		予算額 (千円)	－	担当課	生涯学習課	区 分	継 続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	市民	市民の学習機会の充実を図るとともに、市政に対する理解を深め、主体的な地域づくりへの参画を促進する。						
事業 内容	○市職員やボランティア等による地域ニーズに応じた講座内容の充実 ○市政・地域情報の提供を通じた市民理解の促進 令和8年度は81講座を実施する。また、出前講座受講者へのアンケート等により、ニーズをくみ取り、講座内容の充実を図る。 令和8年度目標：受講者数 12,500人 開催数 350回							

事業名	基本的な生活習慣の確立を目指した健康教育充実事業 (再掲)【重点】		予算額 (千円)	—	担当課	学校教育課 生涯学習課	区 分	新 規
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	幼児児童生徒・教職員・保護者	心身共に発達途上にある幼児児童生徒の基本的な生活習慣を整えることにより、学習意欲や気力の充実、体力の向上を目指す。						
事業 内容	・睡眠とメディアコントロールを中心に発達段階に応じた生活習慣の向上を目指す。 ・メディアコントロール等の啓発活動を展開する。 ・笠岡市教育研修所養護部会と連携した取組を行う。また、学校が行う健康教育を支援する。 ・PTA連合会等と連携した健康教育を推進する。 令和8年度目標：「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」 「そう思う」と回答した児童生徒の割合 小学校87.0% 中学校87.0%							

事業名	食育推進・啓発事業（再掲）【重点】	予算額 （千円）	—	担当 課	学校給食センター 学校教育課 生涯学習課	区 分	継 続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）					
	児童生徒・保護者	基本的な生活習慣を身につけるとともに、必要とされる質・量・栄養を摂取し、自己の健康管理に取り組む姿勢を育てる。					
事業 内容	○「早寝・早起き・あいさつ・朝ごはん」運動を推進し、学校・家庭と連携し、基本的な生活習慣、特に食習慣に関心をもち、自分で健康管理に取り組める食育を行う。 ・身近な課題として取り組む食育指導の実施　令和8年度目標：食育指導　小学校1・3・6年生・中学校の全学級へ訪問、朝食指導　小学校5年生の全学級へ訪問 ・残食率の調査と適切な栄養摂取指導　令和8年度目標：学校給食の提供量に対する残食率16.0％以下 ・「献立による学校給食指導年間計画表」等による行事食等、児童生徒の希望献立の実施　令和8年度目標：全校 ○学校給食は生きた教材であり、一日の食生活の一部であることを理解し、家庭においても栄養バランスのとれた食事が実践できるよう情報提供を行う。 ・朝食摂取に関するアンケートと実態把握　令和8年度目標：毎日朝食を食べるアンケート結果80％以上 ・給食だより、動画等による食の情報提供、情報発信　令和8年度目標：月1回以上						

事業名	学びの情報発信事業		予算額 (千円)	14	担当課	生涯学習課	区	継続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	市民	学習や体験活動に関する情報をタイムリーかつわかりやすく発信すること で、学びへの参加のきっかけをつくり、市民の学習活動への参加を促進し、継続的な学びにつなげる。						
事業 内容	○講座・イベント等に関する多様な媒体を活用した情報提供の推進 ○他部署と連携した学習機会への参加促進に向けた広報の強化 ○生涯学習フェスティバル等による学習成果の発信機会の創出 令和8年度目標：生涯学習カレンダー 年2回発行 SNSによる情報提供回数 50回							

事業名	学びの担い手の育成・連携支援事業		予算額 (千円)	－	担当課	生涯学習課	区 分	継 続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	市民・市民団体・社会教育関係団体・企業	多様な主体が学びの機会を提供する担い手として活動できるよう、人材の育成及び活動基盤の整備を図るとともに、相互の連携を促進し、持続的な学びの環境づくりを推進する。						
事業 内容	○学びの機会を提供する多様な主体の活動支援 ○地域学校協働活動(地域学校協働本部事業 放課後子ども教室、土曜日教育支援事業)の担い手同士の連携・交流の促進 令和8年度目標：地域学校協働活動研修会及び情報交換会 年2回							

基本施策12 地域とともに進める学校における地域探究学習の推進

- 家庭・地域・学校・行政が一体となって地域ぐるみで子どもたちを支える体制
- 地域の教育力の向上による学びを支援する環境の整備

事業名	「たい」のあふれる地域探究学習支援事業（資料⑦） 【重点】		予算額 (千円)	2,900	担当課	生涯学習課 学校教育課	区 分	継 続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	児童生徒・保護者・地域住民・学校関係者	地域と学校が連携・協働し地域探究学習を展開することができる体制の整備や地域資源を活用した学びの機会の提供等、地域ぐるみで子どもたちの主体的な学びを支援する環境を整備し、ふるさとへの愛着と誇りを醸成する。						
事業 内容	○地域学校協働活動の推進及びコーディネート体制の整備 ○地域人材の参画による学習・体験活動（放課後・土曜日等）の実施 ○北木島宿泊研修所「石切りの杜」の活用による地域学習の支援 ○地域探究学習に活用できる笠岡の自然・歴史・文化に関する情報提供 （地域学校協働本部事業） 実施校：6中学校、12小学校 令和8年度目標：児童生徒1人あたりに関わる地域ボランティア人数 10.0人							

基本施策13 読書活動の推進

- 市民が、いつでもどこでも読書に親しむことができる取組の推進
- 子どもの読書活動の推進
- 障がい等の有無にかかわらず誰もが読書に親しめる環境の整備

事業名	「いつでも どこでも だれでも」読書推進事業【重点】		予算額 (千円)	7,840	担当課	生涯学習課	区分	継続
事業目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	市民・利用者	市民が時間や場所、障がいの有無にかかわらず読書に親しむことができる環境を整備し、多様な手段による読書機会の提供を通じて、読書活動への参加の促進と学びの基盤の充実を図る。						
事業内容	○電子図書館の導入及び活用の推進による非来館型サービスの充実 ○移動図書館車「かぶとがに号」及び島しょ部巡回文庫の運行による来館困難者へのサービス提供 ○障がいの有無にかかわらず誰もが利用しやすい読書環境の整備（読書バリアフリーの推進） 令和8年度目標：電子図書館年間コンテンツ利用回数 400回							

事業名	図書館事業	予算額 (千円)	86,670	担当課	生涯学習課	区 分	継 続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）					
	市民・利用者	市民が多様な資料や学習機会に触れ、主体的に読書活動に親しむことができる環境を整備するとともに、学校や地域との連携を通じて読書活動の推進を図り、学びの基盤の充実と地域文化の理解の深化を図る。					
事業 内容	○利用者のニーズに応じた資料の収集・保存及び情報提供の充実 ○読書意欲の向上を図る講座や行事の開催 ○子ども（0～15歳）の読書活動の推進を図る ○学校及び学校図書館との連携による児童生徒の読書環境の充実 ○広域連携に基づく図書館サービスの提供 令和8年度目標：図書の総貸出者数 55,078人						

基本方針5 楽しさや喜びにつながるスポーツ等の推進

【現状と課題・対応の方向性】

- ・放課後や休日の生活様式の多様化による学校以外での運動機会の不足
→ 就学期においてスポーツの重要性を正しく認識し、体力の維持・向上に努める必要
- ・平均寿命が延びる中、運動を習慣化し健康寿命を延伸することが必要
- ・部活動は、学校の規模により実施種目が限定され、生徒が希望する種目に参画できないことが課題
- ・スポーツ施設や競技用機器・設備の老朽化への対応が必要
- ➡ **誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境の整備**による地域スポーツの振興と地域コミュニティの醸成
部活動の地域展開では、**生徒が希望する種目に参画できるよう、笠岡市独自の制度を構築**
スポーツ施設等の修繕や更新の計画的な実施等による環境整備

基本施策14 誰もが楽しめる生涯スポーツの推進

- スポーツ推進委員やスポーツ協会等との連携による、**誰もがいつでもどこでも親しめるニュースポーツ等の推進**
- スポーツを通じた世代間交流や地域コミュニティの活性化
- スポーツ施設や機器等の適正な維持管理

事業名	地域スポーツ推進事業【重点】	予算額 (千円)	1,158	担当課	スポーツ推進課	区 分	継 続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）					
	市民	年齢や性別、障がいの有無に関わらず、誰でもスポーツに親しめる機会の提供や環境づくりを推進し、体力の維持・健康増進による健康寿命の延伸に加え、スポーツを通じて世代間交流や地域コミュニティの活性を図る。 (資料⑧)					
事業 内容	○誰もがスポーツに親しむ機会を提供するため、スポーツ推進委員を地域に派遣する ○幼児や小中学生を対象にしたスポーツ教室を開催する ○定期的な軽運動やニュースポーツを楽しめる機会を提供する。(スポーツ・レクリエーション事業) ○障がいがある方が参加できるスポーツ大会を実施する 令和8年度目標：ニュースポーツ大会の開催 年3回（うち障がい者参加者数20人）						

基本施策15 スポーツレベルの向上を目指した競技スポーツの推進

- 競技環境の整備や指導者の育成
- スポーツ協会や地域クラブ等との連携による、選手の競技力向上を目指した環境づくり
- 各種大会に出場する選手への支援と賞揚、市民への周知
- プロチームやトップアスリートの試合の誘致によるスポーツへの関心の高揚と競技人口の拡大

事業名	スポーツ賞揚事業	予算額 (千円)	780	担当課	スポーツ推進課	区 分	継 続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）					
	市民等	激励会の開催や懸垂幕の掲揚、またスポーツ賞揚金の贈呈により、出場選手を激励し、競技レベルの向上を図る。					
事業 内容	○全国大会等出場者の応援ボードを掲示する ○全国大会等出場者へ公益財団法人笠岡市文化・スポーツ振興財団から賞揚金を贈呈する 令和8年度目標：賞揚件数143件						

事業名	市民スポーツ振興事業		予算額 (千円)	2,437	担当課	スポーツ推進課	区 分	継 続
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	市民	競技スポーツの強化を中心に総合的なスポーツの推進を図る。						
事業 内容	○公益財団法人笠岡市文化・スポーツ振興財団や笠岡市スポーツ協会と連携して、スポーツイベントの活性化を図るため、市民スポーツ大会、カブトガニ駅伝大会、べいふあーむマラソン大会を実施する ・笠岡市スポーツ協会に事業委託 令和8年度目標：カブトガニ駅伝大会参加者数250人 べいふあーむ笠岡マラソン大会参加者数1,000人（うち障がい者参加者数20人）							

基本施策16 部活動の地域展開（笠岡方式）の推進

- 生徒の体力向上や人格形成、学級や家庭以外で仲間と共に活動する場としての役割を維持
- 希望するすべての生徒が参画できる持続可能な活動を推進
- 笠岡の状況に即した制度の構築による円滑な地域展開の推進

事業名	部活動地域展開推進事業（資料⑨）【重点】		予算額 （千円）	6,125	担当課	スポーツ推進課 生涯学習課 学校教育課	区分	新規
事業 目的	対象（誰を）	意図（どのようにしたいのか）						
	中学生	希望する全ての生徒が参画できる地域部活動の体制を構築する。						
事業 内容	○地域部活動推進コーディネーターを配置し、地域部活動連絡協議会を設置運営するとともに、地域クラブコースと放課後クラブコースの開設及び試行実施を進める。 ○地域クラブコースの開設に向けて ・生徒が多様で魅力的な種目や活動を選択できるよう多くの受入団体の加入を促進する。 ○放課後クラブコースの試行実施 ・放課後に学校で活動する機会を提供する。指導者は、部活動指導員や地域の指導者とし、教育委員会が主体となり運営する。 ・実施体制は、団体種目を拠点となる学校で行うセントラル方式と個人種目を各学校で行うサテライト方式とし、実施可能な種目において試行実施を行う。							

指標

本計画の推進に当たり、計画の進捗状況の成果を具体的に図るため指標を設定しました。
指標は、本計画の上位計画である笠岡市教育振興基本計画に基づき設定しています。

評価指標		現状	目標値	最終目標値	説 明	8 次
		R6(2024) 年度	R8(2026) 年度	R11(2029) 年度		※1
基本方針１ 自立と共生を目指した「たい」のあふれる学校教育						
「将来の夢や目標を持っていますか」(当てはまると回答した割合)		57.5% (小6) 40.1% (中3)	60.5% (小6) 44.0% (中3)	65.0% (小6) 50.0% (中3)	全国学習状況調査の児童生徒質問紙より	
基本 施策 １	自分で考え、自分で判断し、他者と協働しながら課題解決する力の育成					
	評価指標	現状	目標値	最終目標値	説 明	8 次
		R6(2024) 年度	R8(2026) 年度	R11(2029) 年度		※1
	「授業では課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいた」児童生徒の割合(当てはまると回答した割合)	24.2% (小6) 32.2% (中3)	26.5% (小6) 35.3% (中3)	30.0% (小6) 40.0% (中3)	全国学習状況調査の児童生徒質問紙より	○
	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」児童生徒の割合(当てはまると回答した割合)	39.1% (小6) 45.5% (中3)	43.4% (小6) 47.3% (中3)	50.0% (小6) 50.0% (中3)	全国学習状況調査の児童生徒質問紙より	○
	小学校全国学力調査国語の全国正答率との差(小6)	-0.8 (R7年)	0.3	2.0	小学校全国学力状況調査国語平均正答率のポイント差	○
	小学校全国学力調査算数の全国正答率との差(小6)	-3.0 (R7年)	-1.0	2.0	小学校全国学力状況調査算数平均正答率のポイント差	○
	中学校全国学力調査国語の全国正答率との差(中3)	-0.3 (R7年)	0.6	2.0	中学校全国学力状況調査国語平均正答率のポイント差	○
	中学校全国学力調査数学の全国正答率との差(中3)	-1.3 (R7年)	0.0	2.0	中学校全国学力状況調査数学平均正答率のポイント差	○
基本 施策 ２	地域の課題解決等に児童生徒が参画する地域探究学習の推進					
	評価指標	現状	目標値	最終目標値	説 明	8 次
		R6(2024) 年度	R8(2026) 年度	R11(2029) 年度		※1
	「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」児童生徒の割合(当てはまると回答した割合)	35.7% (小6) 32.5% (中3)	41.4% (小6) 39.5% (中3)	50.0% (小6) 50.0% (中3)	全国学習状況調査の児童質問紙より	○
「授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができていると思いますか」児童生徒の割合(当てはまると回答した割合)	39.1% (小6) 18.9% (中3)	41.4% (小6) 25.3% (中3)	45.0% (小6) 35.0% (中3)	全国学習状況調査の児童生徒質問紙より		

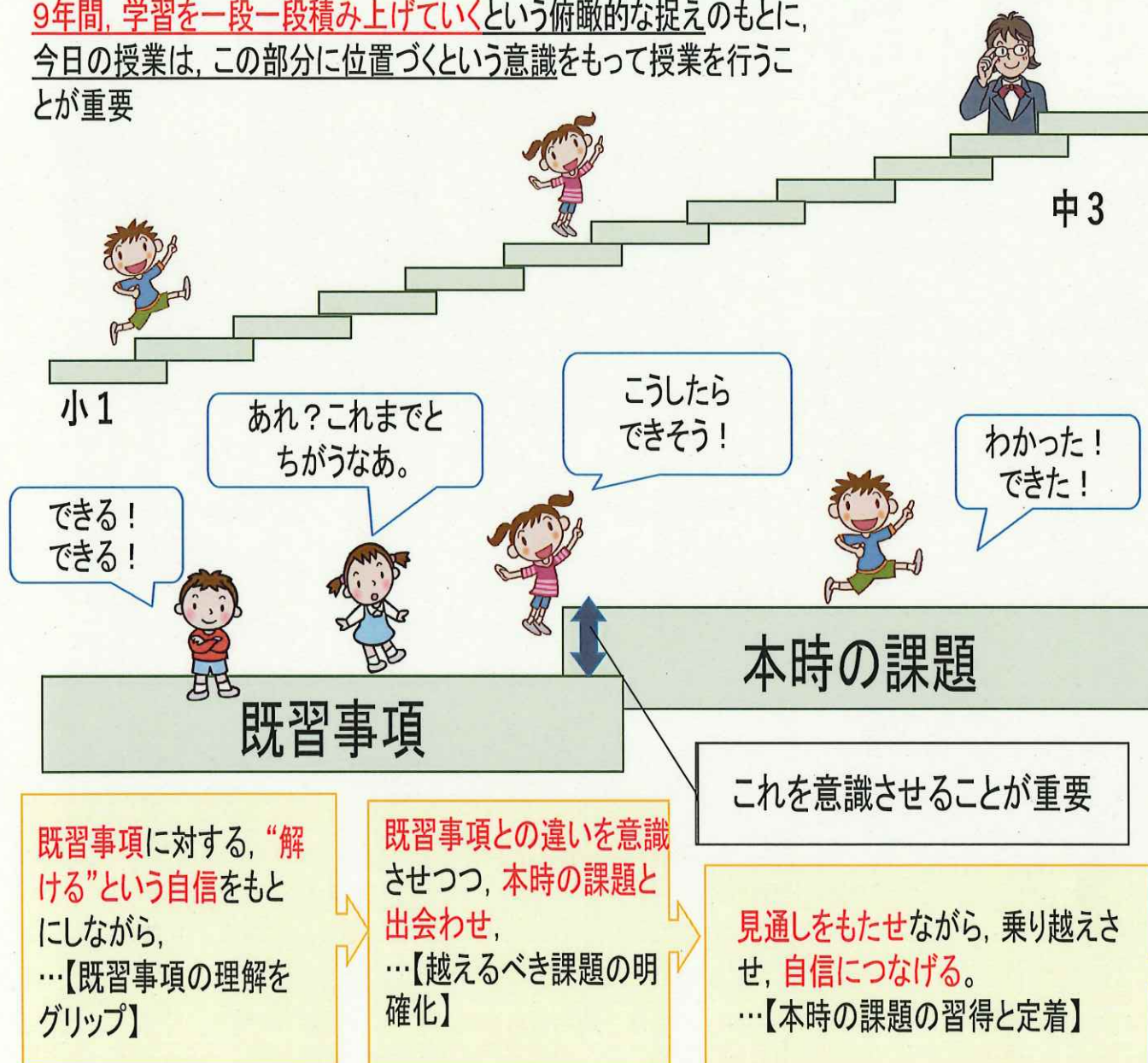
基本 施策 3	将来を見据え、持続可能な教育体制や環境の整備					
	評価指標	現状	目標値	最終目標値	説 明	8 次
		R6(2024) 年度	R8(2026) 年度	R11(2029) 年度		※1
	「中学校で学習する 内容が楽しみだ」児童 生徒の割合(そう思 うと回答した割合)	41.9% (小6)	45.1% (小6)	50.0% (小6)	小中一貫教育に関するアン ケートより	
	「教科の指導におい て9年間の系統性を 意識した授業づくり を行っている」教職 員の割合(そう思うと 回答した割合)	21.2%	26.7%	35.0%	小中一貫教育に関するアン ケートより	
	時間外在校等時間の 平均時間/月	小学校 33.2時間 中学校 33.0時間	小学校 31.9時間 中学校 31.8時間	小学校 30.0時間 中学校 30.0時間	ひと月当たりの時間外在校等 時間の平均 (年間360時間)	
基本 施策 4	スロープ等による段 差解消(小中学校) ※休校中を除く	校舎 28.6% 屋内運動場 23.8%	校舎 90.0% 屋内運動場 63.1%	校舎 100% 屋内運動場 100%	笠岡市内小中学校におけるス ロープ等の設置状況(内部)	
	基本方針2 多様な生き方の尊重と居場所づくり					
	人権問題を自らの課題として捉え、解決しようとする態度の育成					
	評価指標	現状	目標値	最終目標値	説 明	8 次
		R6(2024) 年度	R8(2026) 年度	R11(2029) 年度		※1
	「いじめはどんな理 由があってもいけな いことだと思います か」児童生徒の割合(そ う思うと回答した割 合)	76.7% (小6) 81.8% (中3)	78.0% (小6) 83.0% (中3)	80.0% (小6) 85.0% (中3)	全国学習状況調査の児童生徒 質問紙より	○
基本 施策 5	総合教育相談支援センターを中心とした「笠岡市長期欠席・不登校総合対策」の推進					
	評価指標	現状	目標値	最終目標値	説 明	8 次
		R6(2024) 年度	R8(2026) 年度	R11(2029) 年度		※1
	1000人当たり不登校 児童数(小学校)	13人	11人	8人	児童生徒の問題行動・不登校 等生徒指導上の諸課題に関す る調査	○
	1000人当たり不登校 生徒数(中学校)	44人	38人	30人	児童生徒の問題行動・不登校 等生徒指導上の諸課題に関す る調査	○
基本 施策 6	特別な支援を必要とする児童生徒の社会的自立を目指した、専門的な指導・支援等、特別支援教育の充実					
	評価指標	現状	目標値	最終目標値	説 明	8 次
		R6(2024) 年度	R8(2026) 年度	R11(2029) 年度		※1
	「自分にはよいところ があると思います か」児童生徒の割合 (当てはまると回答し た割合)	44.1% (小6) 40.4% (中3)	45.2% (小6) 41.1% (中3)	47.0% (小6) 43.0% (中3)	全国学習状況調査の児童生徒 質問紙より	○

評価指標		現状	目標値	最終目標値	説 明	8 次
		R6(2024) 年度	R8(2026) 年度	R11(2029) 年度		※1
基本方針3 文化・芸術の振興と探究						
文化・芸術・自然探究事業参加者数		9,082人/年	8,980人/年	9,100人/年	文化・芸術・自然に関する各種講座・イベント及び探求事業の参加者数の合計	○
基本 施策 7	文化財の適切な保護・保存と効果的な活用					
	評価指標	現状	目標値	最終目標値	説 明	8 次
		R6(2024) 年度	R8(2026) 年度	R11(2029) 年度		※1
	文化財保護件数	40件／年	40件／年	40件／年	文化財を調査・保護した件数	○
基本 施策 8	芸術・文化活動の振興と交流					
	評価指標	現状	目標値	最終目標値	説 明	8 次
		R6(2024) 年度	R8(2026) 年度	R11(2029) 年度		※1
	文化イベント総参加者数	4,100人／年	4,180人／年	4,300人／年	文化祭等の文化振興事業参加者数の合計	○
基本 施策 9	美術館を通じた芸術文化に触れる取組の充実					
	評価指標	現状	目標値	最終目標値	説 明	8 次
		R6(2024) 年度	R8(2026) 年度	R11(2029) 年度		※1
	竹喬美術館特別展における満足度	89%	89%	90%	芸術を体験し充足した人の割合	○
基本 施策 10	カプトガニの保護及び研究者ネットワークの構築					
	評価指標	現状	目標値	最終目標値	説 明	8 次
		R6(2024) 年度	R8(2026) 年度	R11(2029) 年度		※1
	カプトガニの調査および保護に関わる延べ人数	730人/年	738人/年	750人/年	カプトガニの調査・保護・啓発活動に主体的に関わった人数	○
評価指標		現状	目標値	最終目標値	説 明	8 次
		R6(2024) 年度	R8(2026) 年度	R11(2029) 年度		※1
基本方針4 生涯学習環境の整備						
生涯学習活動参加者延べ人数		141,036人/年	140,200人／年	141,100人／年	公民館講座及びまちづくり出前講座の受講者数, 生涯学習フェスティバル参加者数及び図書館貸出者数の合計	○
基本 施策 11	学習機会の提供と環境づくり					
	評価指標	現状	目標値	最終目標値	説 明	8 次
		R6(2024) 年度	R8(2026) 年度	R11(2029) 年度		※1
	生涯学習講座受講者満足度	-	60%	60%	公民館講座及びまちづくり出前講座の受講者の満足度	○

基本 施策 12	地域とともに進める探究学習					
	評価指標	現状	目標値	最終目標値	説 明	8 次
		R6(2024) 年度	R8(2026) 年度	R11(2029) 年度		※1
	地域学校協働活動事業等で児童生徒1人あたりに関わる地域ボランティア人数	10.2人	10.0人	10.6人	地域学校協働活動事業等で児童生徒1人あたりに関わる地域ボランティア人数	○
基本 施策 13	読書活動の推進					
	評価指標	現状	目標値	最終目標値	説 明	8 次
		R6(2024) 年度	R8(2026) 年度	R11(2029) 年度		※1
	図書館の貸出者数	54,781人/年	55,078人/年	55,300人/年	本を借りた延べ人数	○
子どもの不読率	小学生 10.5% 中学生 20.1%	小学生 8.3% 中学生 16.0%	小学生 5.0% 中学生 10.0%	1か月の間に1冊も本を読まない児童生徒の割合		
評価指標		現状	目標値	最終目標値	説 明	8 次
		R6(2024) 年度	R8(2026) 年度	R11(2029) 年度		※1
基本方針5 楽しさや喜びにつながるスポーツ等の推進						
各種スポーツ大会・教室の参加者数（市民スポーツ大会・教室）		1,497人	1,588人	1,650人	スポーツ大会・教室の年間参加者人数	○
基本 施策 14	誰もが楽しめる生涯スポーツ活動の推進					
	評価指標	現状	目標値	最終目標値	説 明	8 次
		R6(2024) 年度	R8(2026) 年度	R11(2029) 年度		※1
	「週に1回以上運動やスポーツをしている」市民の割合	38.60%	45.72%	56.40%	市民アンケート（18歳以上が対象）で、「週1回以上スポーツをしている」と回答した割合（笠岡市は全国平均を下回っているため、目標を全国平均とする。）	○
市内スポーツ施設の利用人数	279,601人	299,760人	330,000人	総合スポーツ公園、運動公園、古代の丘スポーツ公園等、市内スポーツ施設の利用者数	○	
基本 施策 15	スポーツレベルの向上を目指した競技スポーツの推進					
	評価指標	現状	目標値	最終目標値	説 明	8 次
		R6(2024) 年度	R8(2026) 年度	R11(2029) 年度		※1
全国・世界大会延べ出場件数		個人 90件 団体 6団体	個人 95件 団体 8団体	スポーツ競技の全国・世界大会に出場し、賞揚金を交付した件数		
基本 施策 16	部活動の地域展開（笠岡方式）の推進					
	評価指標	現状	目標値	最終目標値	説 明	8 次
		R6(2024) 年度	R8(2026) 年度	R11(2029) 年度		※1
生徒を受け入れる地域クラブの数	不明	15	20	部活動地域展開で、生徒を受け入れる地域クラブの数		

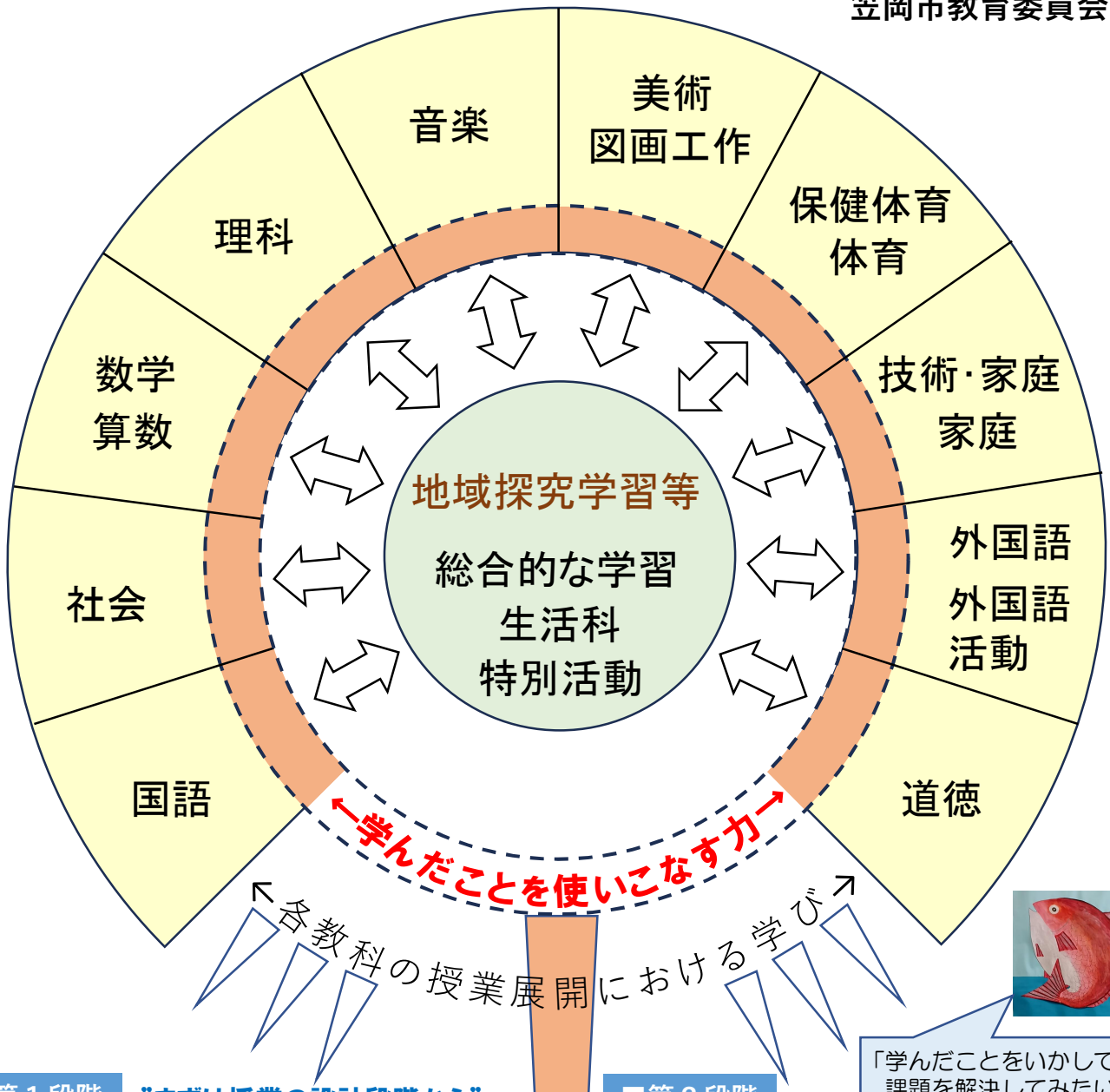
「つながる学び」

9年間、学習を一段一段積み上げていくという俯瞰的な捉えのもとに、今日の授業は、この部分に位置づくという意識をもって授業を行うことが重要



各教科で学んだことを使いこなす力を育成していくために

笠岡市教育委員会



■第1段階 “まずは授業の設計段階から”

「1時間の授業」或いは「単元のまとめごと」で
『何を学んで使えるようにしていくか』を明確にして
授業を設計

これを意識すれば

- 「めあて」の設定のあり方が変わってくる。
- 「展開場面」も、場面に応じた最適な指導方法を意図的・戦略的に組み合わせていくという考え方に。
- ・リアリティーのある題材設定(日常生活や身近な現象と結びつける等)
- ・より有効な教材や教具の活用(端末やデジタルコンテンツ等)
- ・より効果的な学習形態の設定(個人、ペア、グループ等)
- 「授業の終末」や「単元のまとめ」では、学んだことが想定どおり使えるようになったかを意識した展開に。
- ・適用問題、パフォーマンステスト、発表、レポート提出等
- ・家庭学習との連動も重要

■第2段階

“使えるようになった力を活用する場の創出”

地域探究学習(地域学)や特別活動は、
「各教科で身につけた見方・考え方」や
「使えるようになった力」を
使いこなしながら課題解決できる格好の場面
※教員が伴走しながら、児童生徒が各教科で身につけた力を、教科を越えて主体的に活用することで、学びの更なる質の高まりが期待できる。

■第3段階

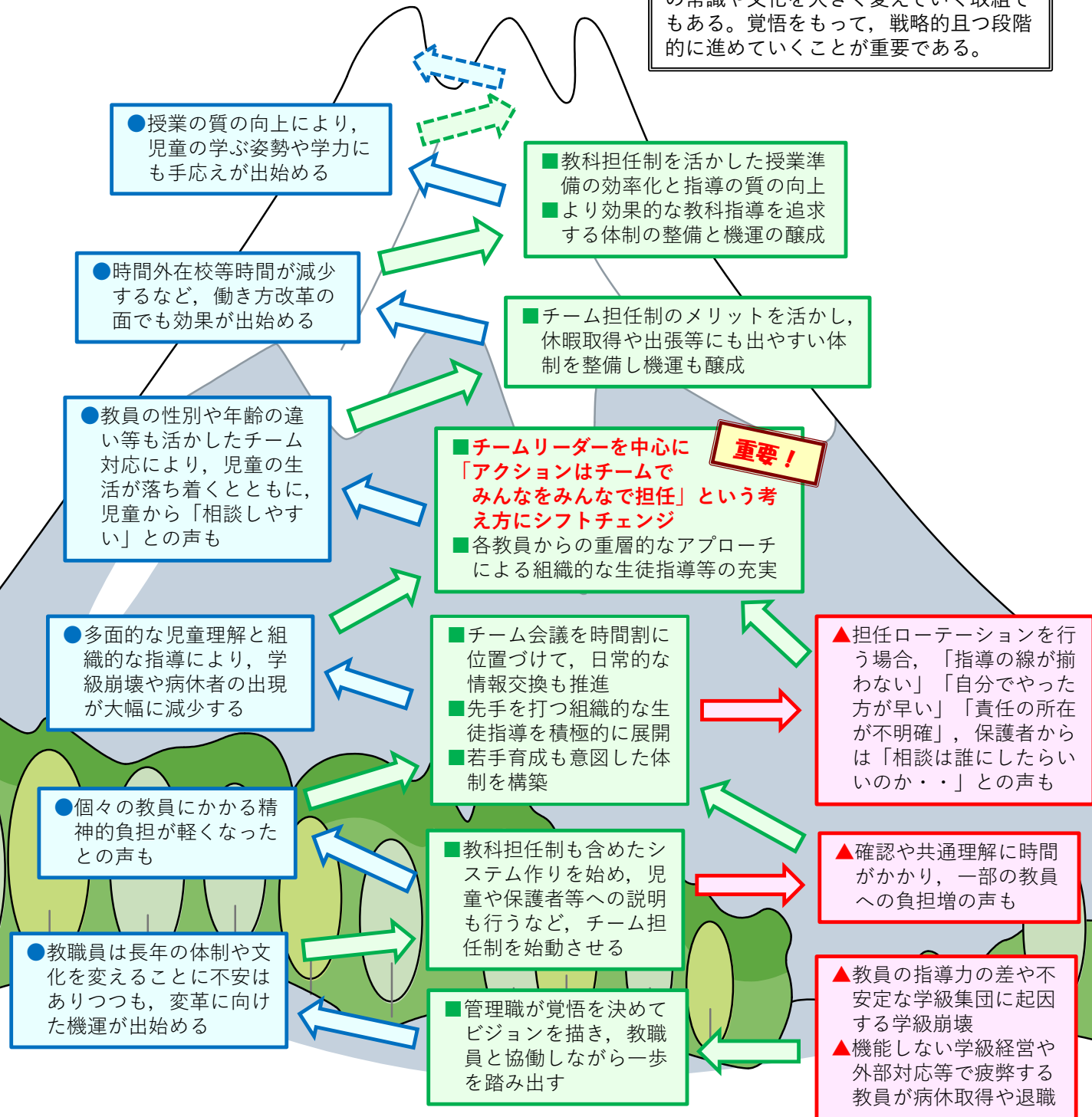
“地域探究学習等と各教科の授業の往還”

※地域探究学習等をより深めていく中で必要となる力を、各教科の授業にフィードバックして育成する。

小学校チーム担任制の成功に向けた戦略的・段階的アプローチ

笠岡市教育委員会

次代を見据え、今日的な教育課題に対して新たな発想で取り組む「チーム担任制」は、これまで長年続いてきた小学校の常識や文化を大きく変えていく取組でもある。覚悟をもって、戦略的且つ段階的に進めていくことが重要である。



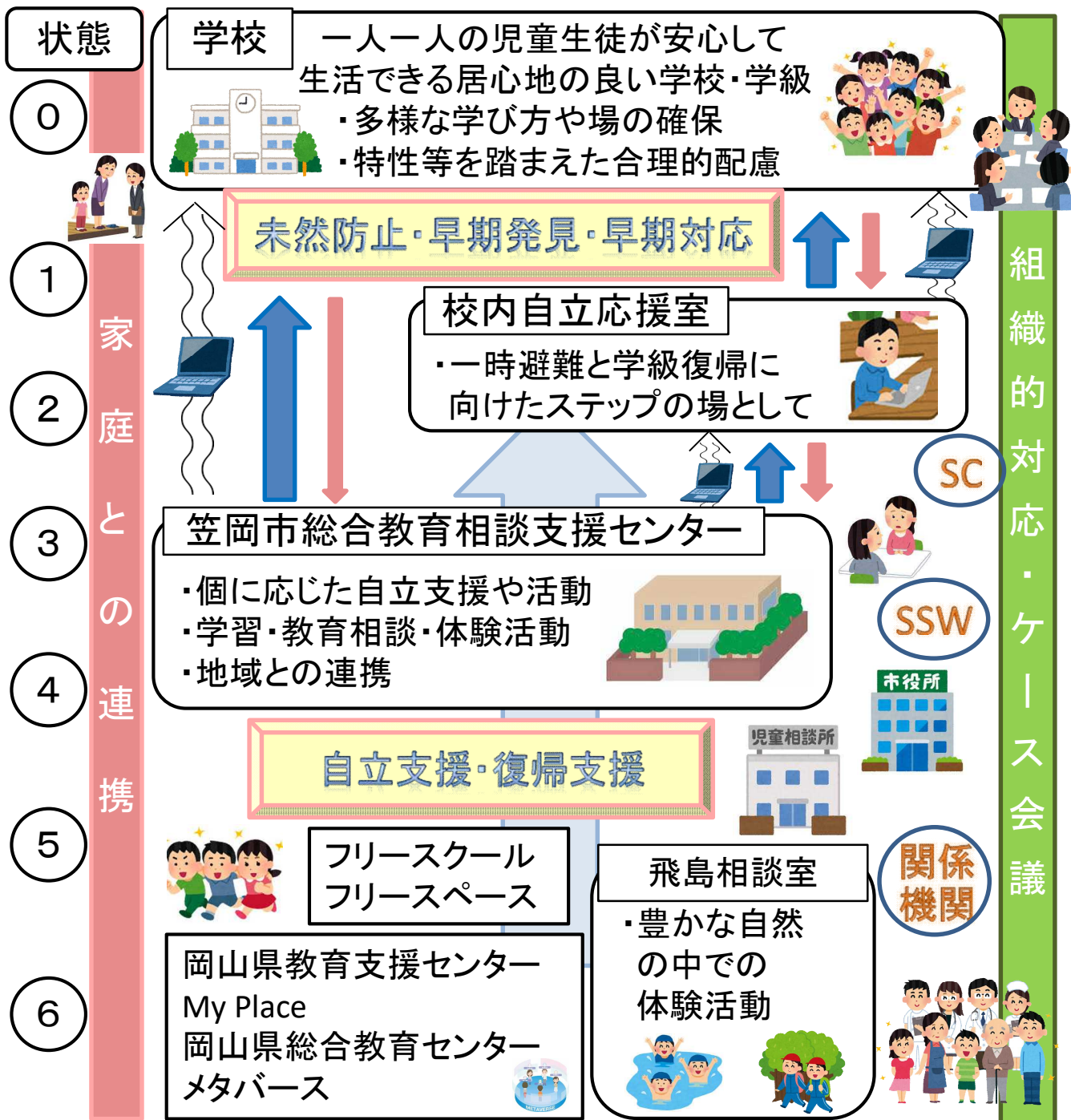
見込まれる
効果

段階的な
取組

表出する
課題

笠岡市長期欠席不登校総合対策

笠岡市教育委員会



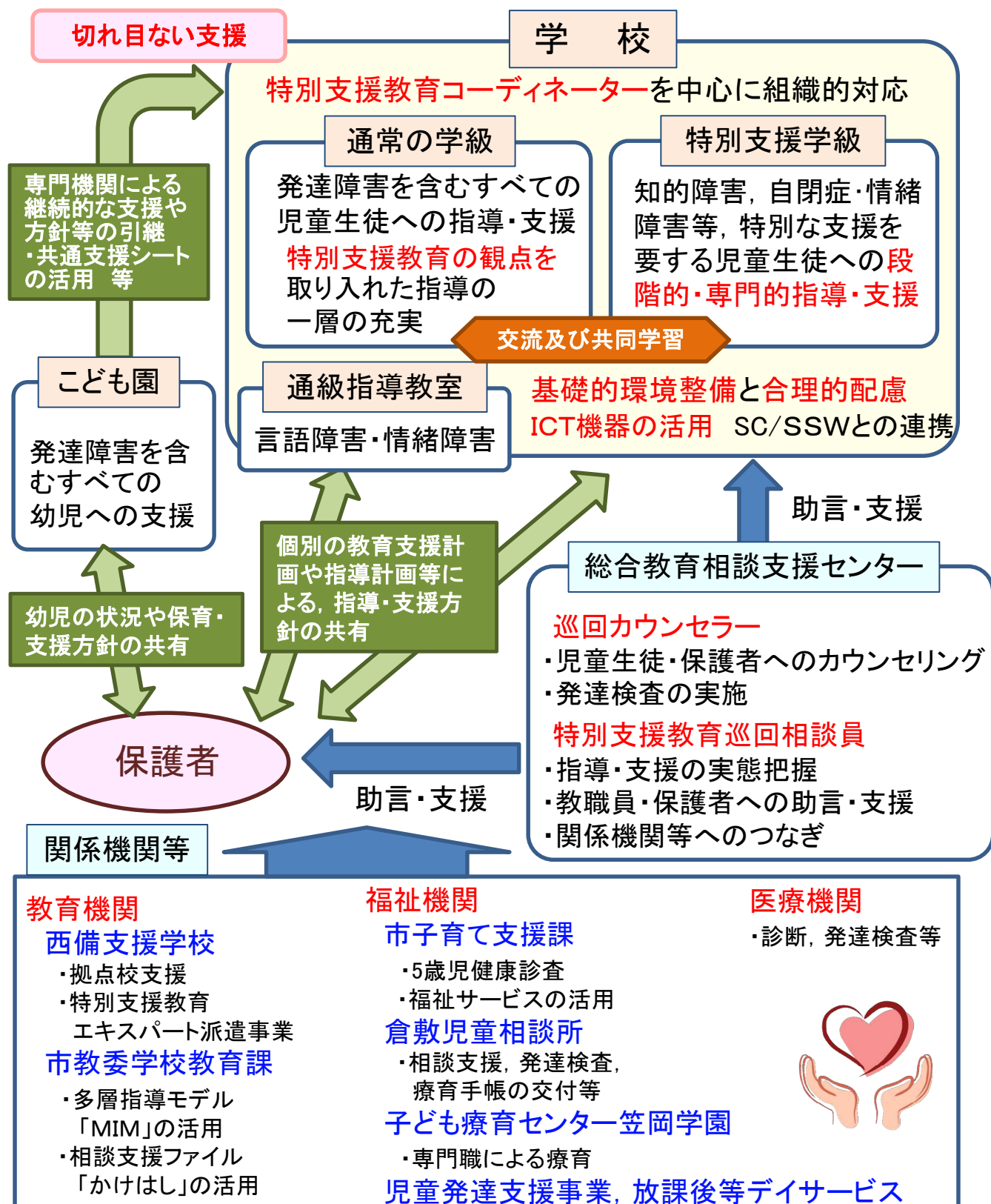
状態	0	1	2	3	4	5	6
状態評価の説明	ほぼ平常に登校している	遅刻・欠席がしばしばある、保健室通いが多い	保健室・別室登校、半分以上欠席	学校以外の施設への定期的参加ができる	比較的気軽に外出できる	家庭内では安定しているが外出は難しい	部屋に閉じこもり、家族ともほとんど顔を合わない

笠岡市の特別支援教育の組織的・効果的な推進に向けて

笠岡市教育委員会

留意すべきこと

- ・個々の教育的ニーズを踏まえた、将来の社会的自立に向けた支援
- ・個に応じたスモールステップでの指導・支援（長期目標、短期目標）
- ・専門家や関係機関等とも連携した、専門的な指導・支援





笠岡市【岡山県】 歴史文化基本構想

■策定年度：平成30年度 ■人口：48,407人 ■市域面積：136km²
■担当課：笠岡市委員会生涯学習課（平成31年3月現在）



歴史文化を自然と景観、生活と産業、祈りと信仰、文化、政治、交通と交易の6分野でとりまとめた。そこから、歴史文化の特徴が分かりやすく伝わることや、これまでの保存・継承の取組を踏まえ、「海と生きる」と「受け継ぐ伝統と自然」という特徴のもとに6つの関連文化財群を設定した。関連文化財群の魅力を伝え、歴史文化の保存と活用を効果的に図ることを目指しストーリーを作成した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

海と陸の道、港町、笠岡諸島、
干拓と治水、伝統と自然の継承

課題

- ・歴史文化遺産の価値の浸透。
- ・歴史文化を保存・継承する担い手の減少。
- ・多様な保存活用主体間の連携

保存活用方針

- ・歴史文化遺産の把握と価値の共有、魅力の発信
- ・保存・継承、活用の仕組みづくり

保存活用のための取り組み

歴史文化遺産を通じた郷土への 愛着を育む取り組み

「ふるさと再発見事業」、「子ども歴史教室」などを開催し、子どもたちに笠岡市の歴史や文化財について理解を深めてもらい、郷土への愛着の醸成につなげている。



人材育成の取り組み

観光案内や文化財巡りツアーを実施している観光ガイドボランティアの活動に対して支援を行っている。また、新たにかさおか観光応援サポーターの養成も始め、広く市内の歴史文化遺産を普及啓発する人材を育成している。



歴史文化遺産の保存の取り組み

文化財を保存していくために、保存・継承団体に対して資金面だけでなく後継者の育成事業など、様々な面から支援している。また、文化財の維持・管理等を地元住民と共に担うことによって、文化財の保存活用への積極的な関与を促している。



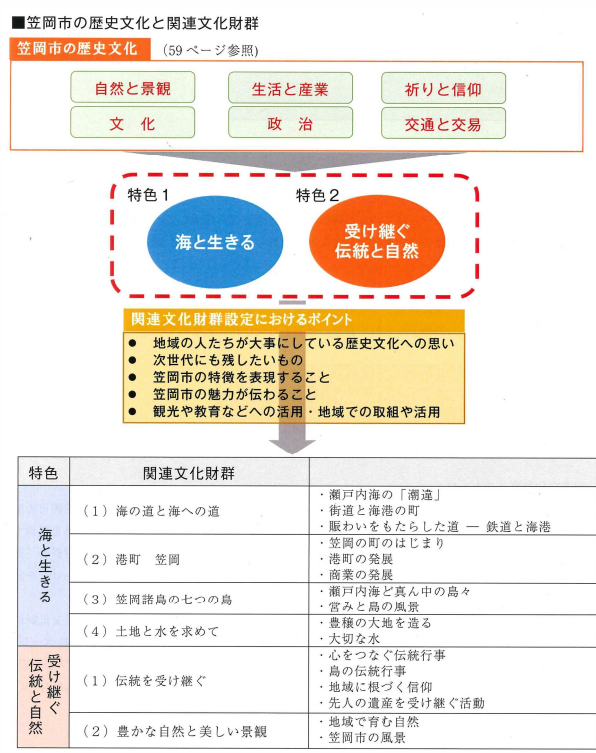
市民が主体の取り組み

市内各地区に、文化財を守り、活用する取り組みを行っている市民団体がある。それぞれに、地区の歴史等について調査しその成果を公開している。また、地元の文化財や先人たちの顕彰活動にも取り組んでいる。





関連文化財群



笠岡市の歴史文化を語るうえで必要不可欠な「海」と、これまで大切に受け継いできた「伝統と自然」を軸に、関連文化財群を設定した。文化財、伝統や自然だけでなく、それを継承している地域の人たちも含めて笠岡市の財産である。また、関連文化財群をストーリーと結びつけることで、市民の誰もがそれについて語るができるよう配慮した。

ストーリー

- ① 海の道と海への道
- ② 港町 笠岡
- ③ 笠岡諸島の七つの島
- ④ 土地と水を求めて
- ⑤ 伝統を受け継ぐ
- ⑥ 豊かな自然と美しい景観



策定後の成果（見込まれる効果）

① 歴史文化遺産とその価値の顕在化

テーマ性を持って地域の歴史文化遺産について情報発信ができるようになった。そのため、本市の歴史や文化の特徴が明確になり、広く市民と共有できるようになった。さらに、歴史文化を語る上で重要でありながら、あまり知られていなかった文化財についても、関心を高めてもらうことが期待できる。



② 地域住民による保存活用の活発化

文化財の保存活用団体や地域住民を巻き込んで策定を進めたことで、団体間及び市と団体とのつながりが強化された。市民が策定に関わったことで、関連文化財群及びそのストーリーについて、浸透を図っていくことが容易となった。さらに、本構想をもとにして、地域住民自らが、関連文化財群の保存と活用を進めていくことが期待される。



③ 市の施策との連携

庁内の関係部署と調整を図りながら構想の策定を進めたことで、市の総合計画をはじめ各種計画に、構想に基づいた歴史文化遺産の保存活用について盛り込むことができようになり、様々な施策との連携を図ることが可能となった。



中国地方

地域を学びのフィールドにした「たい」のあふれる地域探究学習

笠岡市教育委員会

◆基本施策2 地域の課題解決等に児童生徒が参画する地域探究学習の推進

- 地域等を学びのフィールドとした地域探究学習を展開
 - ・ 各教科で身につけた力を活用した地域の課題解決等への子どもたちの参画とキャリア教育の推進
 - ・ 地域探究学習に必要な力を 各教科の指導にもフィードバック
 - ・ 地域住民の協力を得ながら、地域の実情にあった実践的な安全・防災教育を実施

▶ 「たい」のあふれる地域探究学習推進事業
▶ 実践的な防災教育推進事業



◆基本施策12 地域とともに進める学校における地域探究学習の推進

- 家庭・地域・学校・行政が一体となって地域ぐるみで子どもたちを支える体制
- 地域の教育力の向上による学びを支援する環境の整備

▶ 「たい」のあふれる地域探究学習支援事業



【地域探究学習を側面的に支援する施策】

◆基本施策7 文化財の適切な保護・保存と効果的な活用

- 市民への 歴史文化を学習する機会の提供



▶ 文化財を題材とする学校教育（地域探究学習）への支援と学習機会の提供

◆基本施策8 文化・芸術活動の振興と交流

- 世代を問わず多様な文化に関心を持ち、親しみながら活動に参加できる環境の整備
- 文化・芸術活動の活性化と担い手育成の推進



▶ 学校教育（地域探究学習）と連携した文化・芸術体験や発表の場の提供

◆基本施策9 美術館を通じた芸術文化に触れる取組の充実

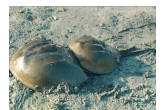
- 小野竹喬顕彰という基本理念を軸に、魅力的で多様な企画展の開催や芸術文化に触れる環境づくり



▶ 対話型鑑賞などの学習プログラムを通じた学校教育（地域探究学習）への支援

◆基本施策10 カブトガニの保護・研究及びネットワークの形成と推進

- 「未来ビジョン」に基づき、繁殖地の保護・調査研究・保護増殖の取組を推進し成果を広く公開



▶ カブトガニや自然環境をテーマとする学校教育（地域探究学習）と連携した学習支援及び研究成果の活用

◆基本施策13 読書活動の推進

- 市民が、いつでもどこでも読書に親しむことができる取組の推進
- 子どもの読書活動の推進



▶ 電子図書館の導入及び活用の推進（児童生徒が1人1台端末から活用可）

※ただし、R8はスポット校3校のみ

令和8年度 教育行政実施計画（笠岡市教育委員会）

基本理念：共に未来を拓く、『たい』のあふれる教育

施策目標：笠岡で学び「たい」、笠岡で学んでよかった
と思える教育・生涯学習の推進と環境の整備

**（基本方針5） 楽しさや喜びにつながるスポーツ等の推進****基本施策 14**

**誰もが楽しめる生涯スポーツ
の推進**

～地域スポーツ推進事業～

- スポーツ推進委員やスポーツ協会等との連携による、誰もがいつでもどこでも親しめるニュースポーツ等の推進
- スポーツを通じた世代間交流や地域コミュニティの活性化
- スポーツ施設や機器等の適正な維持管理



**【基本方針】
楽しさや喜びにつながる
スポーツ等の推進**

基本施策 15

**スポーツレベルの向上を目指した競技
スポーツの推進**

～スポーツ賞揚事業・市民スポーツ振興事業～

- 競技環境の整備や指導者の育成
- スポーツ協会や地域クラブ等との連携による、選手の競技力向上を目指した環境づくり
- 各種大会に出場する選手への支援と賞揚、市民への周知
- プロチームやトップアスリートの試合の誘致によるスポーツへの関心の高揚と競技人口の拡大

基本施策 16

部活動の地域展開（笠岡方式）の推進

～部活動地域展開推進事業（重点）～

- 生徒の体力向上や人格形成，学級や家庭以外で仲間と共に活動する場としての役割を維持
- 希望するすべての生徒が参画できる持続可能な活動を推進
- 笠岡の状況に即した制度の構築による円滑な地域展開の推進

**主な施策事業**

- 幼少期から高齢者までの生涯スポーツの環境整備
- ニュースポーツなど障害者スポーツの推進（スポーツ推進委員との連携による派遣事業の実施）
- 各世代に応じた多様なスポーツ・レクリエーション活動機会の提供
- 公共スポーツ施設の整備・充実
- 週1回以上の運動・スポーツの実施率向上
- 総合型スポーツクラブの体制強化
- 特色を活かした魅力ある部活動の地域移行 など

※第2次笠岡市スポーツ推進基本計画後期計画より抜粋（令和6年度から10年度）

部活動地域展開(笠岡方式)実施計画

笠岡市教育委員会

基本コンセプト

- ・多様で魅力的な地域部活動の場の確保による、生徒の体験幅の拡大
- ・保護者の協力の有無に関わらず、全ての生徒が参画できる場の確保
⇒ 2系統のコースを設定
- ・体罰やハラスメントの防止等、指導者を対象とした研修体制の構築
- ・土日と平日の一体的な運用を前提とした実施計画や体制の整備

地域クラブコース

地域クラブ等(既存・新設)が主体となり、多様で魅力的な活動や体験の場を提供

主に、競技や活動のレベルアップを目指す生徒を対象とするが、活動の幅は限定しない。

【活動場所・時間】

・地域クラブ等が設定

※送迎、活動費の負担は保護者



地域部活動連絡協議会の設置

- ・事業の円滑な運用に向けた関係者間の協議・調整 等

地域部活動推進コーディネーターの配置

- ・地域クラブコース・放課後クラブコースの開設・運営等のサポート
- ・各種研修の実施(体罰, ハラスメントの防止, 休養日の設定等)
- ・部活動指導員等の採用・配置 等

放課後クラブコース

部活動指導員や地域の指導者, 希望する教員等の指導により、学校で活動(平日は学校の教育活動後)

主に、楽しみながら、運動や演奏, 創作・研究活動に関わりたい生徒を対象とするが、活動の幅は限定しない。

セントラル方式

野球, バレーボール, バスケットボール, 吹奏楽等, 団体での活動を必要とする種目等を中心に設定

【活動場所・時間】

- ・土日と長期休業中は、拠点となる中学校へ移動して活動(拠点校へは借り上げバスで移動)
- ・平日は、学校の教育活動終了後各学校で活動

サテライト方式

卓球, バドミントン, ソフトテニス等個人種目を中心に設定

【活動場所・時間】

- ・平日, 土日, 長期休業中いずれも各学校で活動

